

# まちづくりの 主役は あなたです。

まちづくりは、行政だけが進めるものではなく、また、市民一人の力でできることでもありません。たくさんの方が、自分の住むふるさと筑西に対して関心を持ち、まちをよくするためのアイデアを持ち寄ることが、まちづくりの第一歩です。

筑西市では、市民のみなさんとまちづくりを進めるべく『筑西市協働のまちづくり推進計画』を策定しました。市ではさまざまな問題を抱えています。市民と行政が対等・平等なパートナーシップで地域の課題に取り組む「市民協働のまちづくり」が解決策の一つになると期待しています。

今月号では、行政と連携しながら、さまざまな問題を解決し、地域資源を再生させたみなさんを紹介し、市民協働による魅力あるまちづくりについて考えていきます。



## 協働の まちづくり

### —— 成長期 ——

- 産業の振興・経済の成長
- 人口の増加
- 大都市への人口集中
- 価値観の画一化
- 量より質

量的な供給のまちづくり  
行政指導のまちづくり

これまでは、生活を支える  
基盤施設を整備することを  
中心に、行政が主導的に計  
画を作り、実施するという  
形をとってきました。

—— 協働のまちづくり ——  
**自分たちのまちは  
自分たちの手で**

### —— 成熟期 ——

- 産業・経済の低成長
- 人口の減少
- 大都市への人口集中鈍化
- 価値観・ニーズの多様化
- 量より質

多様な質を求めたまちづ  
くり、行政・市民協働の  
まちづくり

量より質を重視した個性  
的なまちづくりが求めら  
れるようになり、住民の  
参加意識の高まりと相  
まって、市民と行政の協  
働のまちづくりが始まっ  
ています。



## まちの中に眠っている文化遺産を多くの人たちに见てもらいたい

7年前、下館のまちに残る石蔵が取り壊されることになりました。調べてみると、使われている石や建築技術がとてもしばらしいものであるとわかりました。「これは残さなければ」という有志が多数集まり、保存活動を行いました。その蔵は時計店の蔵だったので『時の蔵』と名付けました。そして、会の名前を「下館・時の会」としました。「下館・時の会」では、これまでに、市内の旧家に伝わる古い地図を集めた「下館の地図展」や「下館の古神輿」、「浅香鉄心と書遊」などの展覧会を実施してきました。



『時の蔵』に待望のトイレが今年整備されました。これは市の「まちづくりファンド事業」を活用したものです。



また、下館は陶芸家・板谷波山のふるさとですから、しもだて美術館の企画展などに合わせて、波山の魅力を別の角度から紹介したりしています。

私たちの活動は、下館のまちに残る文化遺産を大切にすることを基本に行っています。眠っている遺産を見つけること、守ること、そして、後世に伝えることが私たちの役目です。さらに、その遺産を守るだけではなく、活用することこそ、まちづくりの第一歩だと考えています。

板谷波山は陶芸家としてだけではなく、人々の生活や心をいかに豊かにするかを常に考えていた人でした。私たちも波山の意志を継ぎ、『時の蔵』を活動拠点に、市民団体という軽いフットワークと、会員のネットワークを生かして、私たちにしかできないイベントを行っていきます。

下館・時の会 代表

**一木 努**さん (60)

いちき つとむ

現在、時の蔵では、しもだて美術館の「茨城工芸会展」にあわせ、企画展「波山と茨城工芸会」を12月13日まで開催しています。10月17日には、「全」夜祭が開催されました。

# 市民との協働で進める 筑西市の創造

協働のまちづくり推進計画を策定しました

「市民協働のまちづくり」とは、市民の自主的な活動のもとに、市民と行政が良きパートナーとして連携し、それぞれの知恵と責任においてまちづくりに取り組むことであり、まちづくりでは最も重要なキーワードの一つと考えられます。市では、昨年7月に、市民との協働を進める上でのルールをまとめた「基本指針※」を策定しました。そして、この指針に基づき、市を挙げて本格的な協働をスタートさせるための「推進計画」を策定しました。これからは、この計画に沿って着実に事業を進めて行きます。

※基本指針…協働のまちづくりを進める上で、市民と行政とが良きパートナーとして相互の信頼関係を確立していくためにルールを定めました。「基本指針」は市ホームページや市民協働課で見ることができます。

## 協働のまちづくり推進計画 10の重点事業

- ① (仮称) 市民活動センターの設置運営事業
- ② 協働シンポジウム開催事業
- ③ タウンミーティング事業
- ④ 市民協働に関する情報データベース整備事業
- ⑤ まちづくり出前講座事業
- ⑥ 市民討議会実施事業
- ⑦ 市民協働マニュアル策定事業
- ⑧ 住民参加型まちづくりファンド事業
- ⑨ パブリックコメント整備事業
- ⑩ ちくせい市民講師事業

私たちが明野薪能実行委員会が活動を始めて、今年で17年目になりました。「茨城の田舎にも当代一流の能楽師を呼んで、地域に文化を根付かせたい」という仲間が集まって活動が始まりました。

初めての公演は、ビール箱を逆さにしたような舞台で、プロの能楽師に演じてもらうのが気の毒でしたね。

それから、さまざまな職業の会員たちが力を合わせて、本格的な舞台づくりに挑みました。能楽師の助言をくみ取り、回を重ねるごとに、どこに出しても恥ずかしくない舞台ができあがりました。

私たちの明野薪能は、初回の公演から、入場料をとらないことに決めています。費用は市からの助成もありますが、そのほとんどは、能舞台の出張制作で捻出しています。



毎年4月、明野公民館の満開の桜の下、手づくりの能舞台で明野薪能は開催されます。

今年も、静岡県富士宮市にある浅間大社の薪能の舞台制作にも行ってきました。「明野の舞台は演じやすい」と能楽師のみなさんが全国に広めてくれています。

ここ2年は天候不順などで、明野薪能が屋内での開催となつていますが、次回こそは明野公民館の満開の桜の下で開催したいと思っています。

まちづくりは人づくり。新しい仲間を募集しています。



明野薪能実行委員会会長

古田部 光文さん (56)  
こたべみつひ

多くの市民が  
日本の伝統文化に  
触れる機会を



NPO 法人 里山を守る会理事長

中川 行夫さん (58)  
なかがわ ゆきお

里山は大切な財産  
自然と人との出会いで  
新たな価値観の発見を

活動のスタートは平成12年。かつての美しい里山がごみの山になってしまったことからでした。たまりかねた仲間が大勢集まり、行政と力を合わせて、ごみを運び出しました。また、当時はテレビゲームが流行しはじめたころで、子どもたちを家の中から連れ出す場所を作りたいという気持ちもありましたね。

里山の林は、自然に現在の形になつたものではなく、かつて人間が生活に利用するために形づくられたものです。ですから里山を守るためには、定期的に木を伐採したり、下草を刈ったり、人間の手が常に必要です。毎月第2土曜日が活動の日となっていますが、仲間と汗をかいて、お昼に食べる握り飯は格別ですよ。

現在、里山を守る会（五郎助山丸山）の会員は112人、賛助会員が98人もいます。年間を通して、自然観察会やキャンプ、田植え、稲刈り、お月見会などさまざまなイベントを開催しています。

子どもたちが集まると大人たちも集まってくる。会社を退職したOBのみなさんも子どもたちを指導してくれます。新たな生きがいを見つけたように夢中ですよ。

里山は人を呼び寄せる不思議な力を持つているんですね。



10月17日に開催された「秋の植物観察会」。県立自然博物館の小幡和男先生が里山のさまざまな植物について説明してくれました。



## Interview

まちづくりは  
まず自分のまちに  
誇りを持つことから

茨城大学生涯学習教育研究センター

### 長谷川幸介 准教授

はせがわ こうすけ

筑西市のみなさんが魅力的なまちづくりを行うには、まず住んでいるみなさんが、自分のまちに誇りを持たなければなりません。

誇りを持つための要素は4つあります。1つは自然、2つめが歴史、3つめが産業、4つめが暮らしです。この4つの要素が座標系のなかに発見できるかどうかポイントになるのです。

自然という座標系を調べていくと、必ず“かえる”に会えます。それは「生き返る」です。歴史を調べていくと「<sup>くつがえ</sup>覆る」という“かえる”に会えます。産業を調べると「若返る」という“かえる”に会えます。生活を調べると「<sup>よみが</sup>甦る」という“かえる”に会えます。いきかえる、よみがえる、わかかえる、よみがえる。この4つの“かえる”の頭の文字を取って「いくわよがえる」と言います。

市民のみなさんが、まちづくりをするとき、この「かえる」に出会ってはじめて、自分たちのまちを誇りに思えるのです。

いま、行動してもしなくても、みなさんの生活は存在し続けます。しかし、大切なのは次の時代の人たちに何を残せるかです。

さあ、自分たちのまちをもう一度見直して「いくわよがえる」を探してみませんか。

#### ■ 問い合わせ

市民協働課 内線 484、489

## 協働のまちづくり推進計画

来年度から動き出す主な事業は……

### 市民活動の拠点として

#### 市民活動センターを設置します

市民活動センター（仮称）は、地域交流センター（アルテリオ）の2階に市民協働の拠点として設置します。

自主的な社会貢献活動を支援するためのもので、様々な市民の活動と交流を深めるための市民みんなの施設です。

センターでは、市民のみなさんの活動の情報収集、発信の場や、ネットワークづくりの場としてご利用いただけます。また、センター内には、パソコンや印刷機、コピー機（実費）なども設置しますので活動の幅が大きく広がります。（現在、市民を交えた設立準備会で詳細を検討しています。）



▲守谷市の「市民活動支援センター」。ボランティア団体やNPO法人などが活動の拠点として利用しています。

### 政策決定の情報を共有

#### パブリック・コメント制度を導入

パブリック・コメント制度は、市が重要な施策などを決める際に、その施策に関する計画などの趣旨、内容その他必要な事項がまとまった段階で市民に公表し、寄せられた意見を考慮した上で最終決定していく一連の手続きをいいます。

#### パブリック・コメント制度の流れ

